

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理演習Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報処理演習Ⅰに引き続き、コンピュータについての知識と技能を身につけることを目標とする。特にインターネットを活用し、高度な情報環境を有効に活用できるようにする。 インターネットの活用によって、国内のみではなく、諸外国の福祉の情報も取り入れることが可能になる。また、単なるコンピュータの技術を身につけるだけでなく、ネットワークを通して、グローバルな視野を身につけることも目標としている。	
授業の到達目標	演習を通して様々な技術や知識を獲得し、HTML言語によるWebページの作成を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	太田宗雄、他『コンピュータ入門』共立出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
HTMLの歴史～現状について学ぶ Webサービスはいくつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。		1
HTMLの文法について学ぶ・Webページを作成するツールの紹介等 Webページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Webページを記述する言語であるHTMLを編集するためのエディタについても調べて使ってみる。		1
基礎的なHTMLの演習 HTMLの基本文法を学び、簡単なHTMLを記述してみる。		1
画像の挿入、ハイパーリンクを利用したHTML記述演習 Webページにさまざまなメディアを挿入する際の記述方法を学ぶ。 また、Webの特徴でもあるハイパーリンクの仕組みを理解し、記述してみる。		1
その他 さまざまなHTMLタグを利用した演習 HTMLにはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。		1
スタイルシートの基礎・概要について学ぶ Webページのデザインは主にCSSで行う。CSSとは何かを理解する。		1
スタイルシートの実装について スタイルシートの記述方法を理解し、さまざまなセレクトについて学ぶ。		1
Webのユーザビリティについて 見やすいWeb、使いやすいWebとはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考えてみる。		1
Webサイトの構築について（概念） Webは1ページで完結することは少ない。具体的なサイトの構成を考え、ページデザイン・リンクの構成を検討する。		1
テーマを決めてHTML、CSSを利用したWebページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際にHTML、CSSを利用してサイトを構築する。		1

HTML・CSS 作成演習(1)	1
HTML・CSS 作成演習(2)	1
作成したWeb の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。	1
JavaScript とは、簡単なJavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。	1
Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。	1
レポート作成、添削指導	15
計	30
授業単位数	2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	心理学実験	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目では、心理学における実験法の意義をより理解した上で、実験計画の基本的な枠組みと立案方法を、実際にその展開を参照しながら学んでいく。具体的には、触覚・視覚・聴覚・味覚・嗅覚・平衡感覚・温度感覚・痛覚・運動感覚などの感覚・知覚に関する実験から「性格検査」「知能検査」などのテストまで幅広く実施する。このように、さまざまな心理分野の実験の計画立案、実験を通して、統計に関する基礎的な知識も習得し、人間行動の問題の解決方法を探る。	
授業の到達目標	実験計画の基本的な枠組みと立案方法を、実際にその展開を踏まえて習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	大山正、他『新心理学ライブラリ8 実験心理学への招待』サイエンス社。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
A. 心理現象を科学的に扱う「実験」について知る		
自然観察と実験との相違、目的と仮説について、実験デザインとは何かについてなど、心理学における実験研究の基本について学ぶ。具体例として教科書に挙げられている実際の実験を通して理解する。（該当箇所：教科書 pp.1-30、改訂版pp.1-33）		1
独立変数と従属変数、被験者内要因と被験者間要因、グループ比較デザインと1事例研究 実験デザインにおける基本的な要素について理解する。実際の実験において、それらがどのように実現されているかについて理解を深める。1事例研究とは何のために、どのような場合に使われるものなのか。（該当箇所：教科書 p.16、改訂版p.18）		1
心理学研究における倫理 心理学は人間その他の生体を研究対象としている。臨床や応用分野はもちろん、基礎心理学の分野においても倫理の問題は発生しうる。研究倫理の原則と、問題の発生を事前に防ぐための工夫について学ぶ。（該当箇所：教科書 p.24、改訂版p.26）		1
実験法の長所と短所について 主に観察法や質問紙法と比較した、実験法の長所と短所について学ぶ。長所と短所を知ることにより、実験法の特性をより理解することになる。理解のためには、比較という観点で見る。（該当箇所：教科書p.26、改訂版p.30）		1
B. 感覚・知覚心理学分野における実験研究		
空間知覚における手がかり理論や、運動の知覚について学ぶ。この章においても教科書には、さまざまな実際の実験が紹介されているので、単に理論を覚えるのではなく、それらを併せて理解する（該当箇所：教科書 pp.31-56、改訂版 pp.41-67）		1
感覚・知覚の特性とゲシュタルト心理学 感覚遮断実験やさまざまな錯視の実験、また、ゲシュタルト心理学における知覚の体制化の理論と実験について学び、感覚・知覚の特性に関する知見を学ぶ。（該当箇所：教科書p.32、改訂版p.42）		1
C. 学習心理学分野における実験研究		
心理学における「学習」について、実験研究を通して学ぶ。また、観察学習、代理強化、モデリング等についても理解する（該当箇所：教科書 pp.57-82、改訂版pp.69-96）		1
古典的条件づけとオペラント条件づけ 学習のもっとも基本的な形の一つである古典的条件づけと、自発行動に関わるオペラント条件づけについて学ぶ。日常使われない術語の多い分野であるので、ひとつひとつ丁寧に覚えていくこと（該当箇所：教科書p.57、改訂版p.69）		1
学習の転移と学習された無力感 学習の正の転移と負の転移、および、そこから発展した考え方について学ぶ。学習の構えや学習された無力感についても実験が紹介されているのでよく読むこと（該当箇所：教科書p.72、改訂版p.86）		1

D. 記憶心理学分野における実験研究 短期記憶と長期記憶(と感覚記憶)は実験によってどのように検討されてきたのか。また、エピソード記憶と意味記憶についてなど、記憶についてのさまざまな理論と代表的な実験を学ぶ。(該当箇所:教科書pp.83-112、改訂版pp.99-139)	1
符号化と検索、再生 心理学における記憶の機能の研究は、符号化、保持、検索の3段階に分けておこなわれている。記憶の研究も特殊な術語が多いが、順を追って理解を進めてほしい(該当箇所:教科書p.90、改訂版p.118)	1
E. 思考の心理学における実験研究 生産的思考と再生的試行、情報処理モデルによる説明など、応用分野の一つである思考の心理学について学ぶ。例として挙げられている実験は、さまざまな工夫のこらされたものである(該当箇所:教科書pp.113-138、改訂版pp.143-172)	1
F. 動機づけの心理学における実験研究 人間や生体は、行動の原因として「要求」を持つが、同じ環境にいても人々は異なった行動をとる。ここでは基本的要求、社会的要求、達成要求、親和要求について学ぶ。(該当箇所:教科書pp.139-166、改訂版pp.173-203)	1
外発的動機づけと内発的動機づけ 2つの動機づけについては基礎的研究から応用まで、実際の実験がいくつか紹介されている。内発的動機づけを高めるにはどうしたらよいかなどについて、心理学の知見に基づいて理解する(該当箇所:教科書p.152、改訂版p.186)	1
G. これからの実験心理学 環境(住空間や宇宙、海洋)と心理学、高齢化社会、科学技術の進歩など、実験心理学が社会問題に関わる分野でのいくつかのトピックについて、教科書にて触れられている。(該当箇所:教科書pp.167-188、改訂版pp.207-226)	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	保健医療	
担当教員の実務経験	看護師として、病院・福祉施設勤務経験	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む)や保健医療サービスについて理解する。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を踏襲し、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、連携について理解する。	
授業の到達目標	保健医療サービスにおける各専門職の役割および連携についての基礎的な知識を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
保健医療サービスとは何か:教科書を読んで保健医療サービスの概略、医療法改正にみる保健医療サービスの課題、疾病構造の変化と保健医療サービスの変遷、その中での社会福祉専門職の役割について概要をつかむ。		1
医療関連職種について:教科書を読んで保健医療サービスの構成要素である各医療専門職の役割と業務分担について理解し、さらに福祉専門職である医療ソーシャルワーカーのかかわりについても学修する。		1
医療施設、介護施設について:教科書を読んで保健医療サービスの構成要素である施設・在宅サービスの概略をつかみ、さらに医療施設、介護施設について学修する。		1
在宅支援のシステムについて:教科書で在宅支援のシステムとこれからの課題、地域包括支援センター、について学修する。		1
医師の役割とインフォームドコンセントについて:まず教科書で医師の役割について確認し、教科書を読んで「患者の権利」という考え方の中で医師の意識の变革が求められてきていることを学修する。さらにインフォームドコンセントは「患者の権利」を守るとともに現代社会の疾病構造の変化の中で重要な役割をはたすことについても考察する。		1
医療ソーシャルワーカーとその業務内容について教科書を読み、医療ソーシャルワーカーの歴史的背景と「医療ソーシャルワーカー」業務指針について学修する。さらにその業務内容について詳しく学修する。		1
医療保険制度について:教科書を読んで医療保険の種類と対象者、保険料、保険給付などわが国の医療保険制度について学修する。		1
高額療養費制度について:教科書を詳細に読み、また参考文献なども参照しながら、高額療養費自己負担の限度額が所得と年齢によって決められていることを学修する。		1
診療報酬制度について:教科書を読み、診療報酬の点数表の構成および決定方法、出来高払いと包括払いの違い、審査支払い制度について学修する。診療報酬における医療連携や在宅医療、診療報酬における社会福祉士の評価についても理解する。		1
介護保険制度と介護報酬の概要および公費負担医療制度の概要:教科書を読み、介護保険制度と介護報酬の概要、公費負担医療と自立支援医療について学修する。		1
保健医療サービスの連携の理論:教科書を読み、保健医療サービスにおける多職種連携の意味、チームワークモデルとその目標や役割について学修する。		1
保健医療サービスの連携の実際:教科書を読み、患者の疾患や病態別のチームケアの実際、クリティカルパス(院内パスおよび地域連携クリティカルパス)の意味と今後の課題について学修する。		1
地域の保健医療ネットワーク構築のための基礎知識:教科書2を読んで地域連携とネットワークの原則、保健医療福祉システムづくりと医療ソーシャルワーカーの役割について考察する。		1

地域の保健医療ネットワークングの実際:教科書を読み、長崎在宅Dr.ネットや地域におけるNST 活動、がん医療における地域ケアネットワークなど実際の活動例を学び、これからの課題について考察する。	1
以上学んできたことを総合して、保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割、保健医療サービス連携の理論と実践について自分の考えをまとめる。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護概論	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所勤務	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ	5 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	高齢化が進むわが国において、介護を必要とする人々は増加の一途を辿っている。本科目では、介護の概念、対象、理念などの総論を学んだ上で、介護予防、自立に向けた介護、認知症ケア、終末期ケアなどの概要について理解を深める。	
授業の到達目標	介護の概念や意義を理解し、具体的な介護過程を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習	授業内容に係る講義に加えて、レポート添削等の演習を実施	
使用教科書・教材・参考書	社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
介護の概念と範囲 （社会福祉士及び介護福祉士法 求められる介護福祉士像 身体介護 家事援助 生活支援）		1
介護の理念 （自立支援 エンパワメント ADL QOL 自己決定 尊厳 安楽・安寧 ノーマライゼーション）		1
介護の対象 （マズローの欲求段階説 国際生活機能分類(ICF)）		1
介護過程 （介護サービス計画 介護計画 ケアマネジメント アセスメント ニーズ）		1
介護予防 （要介護状態の原因 健康寿命 廃用症候群）		1
自立に向けた介護 （残存機能 残存能力 自立生活運動）		1
家事における自立支援 （生活行為 衣食住）		1
身支度・移動・睡眠の介護 （麻痺 健側 患側 脱健着患 ボディメカニクス レム睡眠 ノンレム睡眠）		1
食事・口腔衛生の介護 （咀嚼 嚥下 誤嚥 誤嚥性肺炎）		1
入浴・清潔・排泄の介護 （室温 湯温 羞恥心 失禁の種類）		1
認知症ケア （アルツハイマー 脳血管性認知症 中核症状 周辺症状 BPSD 受容 虐待）		1
終末期ケア （デスエデュケーション グリーフケア チームケア）		1
住環境 （バリアフリー ユニバーサルデザイン 住宅改修 福祉用具）		1

医療的ケア (喀痰吸引 医療行為 医療的ケア)	1
介護における専門職の役割と連携 (社会福祉士 介護福祉士 介護支援専門員 精神保健福祉士 医師 歯科医師 看護師 保健師 薬剤師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 管理栄養士 歯科衛生士 チームアプローチ)	1
レポート作成、添削指導	60
	計 75
	授業単位数 5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	精神疾患とその治療	
担当教員の実務経験	看護師として、病院・福祉施設勤務経験	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	75 コマ ・ 5 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	精神医学は、こころの病の学問であるが、最近急速に脳科学との関連性が解明されてきている。その一方で、精神医学を理解するためには、人やこころの理解、人間社会についての知識も不可欠である。患者の生育歴、生活環境、人間関係、心理状態、文化風習など、さまざまな側面を切り離しては、病の本質が見えてこない。 本科目では、精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を学ぶ。まず脳神経細胞の生理的理論を知り、次に精神医学の概念として疾患の成因や分類について学ぶ。そして代表的な精神疾患である器質性精神障害・認知症・アルコールや薬物による精神や行動の障害・統合失調症・気分障害・神経症性障害などについての知識を獲得し、精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む) 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携について理解する。	
授業の到達目標	精神疾患やこころの在り方の分析・治療の基本を習得し、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『精神保健福祉士養成セミナー1(第6版) 精神医学－精神疾患とその治療』へるす出版。	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
精神医学の歴史 西洋と日本における精神医学の歴史を学び、現在の精神医療の状況に至る日本の制度的変遷の流れを把握する。		1
脳神経細胞の解剖生理学的理論 心の活動と脳神経の働きについて、神経伝達物質の基礎や脳局所解剖との関連について理解する。またそれらが、心の変化や疾病とどのように関わっているのか理解する。		1
精神医学の概念 精神医学の概念として、疾患の成因や分類の基礎を理解する。その理解の基に、疾患の成り立ちを段階的に把握し、精神疾患を理解する。		1
精神疾患の診断 精神症状と状態像について、具体的な事例を参考にしながら全体を理解する。		1
器質性精神障害 認知症の分類、成因と症状と予後を理解する。また、認知症がある人への適切な対応について学ぶ。		1
精神作用物質による精神障害 アルコールや薬物による精神や行動の障害を、わが国の現状と照らし合わせ理解し、方策について考える。		1
統合失調症Ⅰ 統合失調症とはどのような状態をいうのかを理解し、現在の病因論や病期と症状を学ぶ。		1
統合失調症Ⅱ 経過と予後および対応を学ぶ。特に危機介入、中・長期的対応は福祉職において重要な課題である。		1
気分障害 うつ病・躁うつ病の症状理解を基本にして、対応・予防について理解する。さらには自殺予防などの理解を深める。		1
神経症性障害、ストレス関連性障害 不安障害、パニック障害、強迫性障害、解離性(転換性)障害、ストレス障害の成因や症状について理解し、対応方法を学ぶ。		1

生理的障害、パーソナリティおよび行動の障害 摂食障害の症状や成因、睡眠障害の分類や特色、対応について理解する。パーソナリティ障害の分類と対応を学ぶ。	1
知的障害、神経系の疾患 知的障害・心理的発達障害・行動および情緒の障害・てんかんについて、医学的知識、社会・制度的な対応を学ぶ。	1
神経疾患の治療 身体療法・精神療法・環境社会療法の基礎を理解し、それらの実践に向け展開する。	1
病院精神科医療と地域精神科医療 わが国の現状と課題を、実際の事例を参考にしながら明らかにし、それに対する地域精神科医療の今後の展開を考える。	1
精神科医療における人権養護 インフォームドコンセントを中心とした人権養護を理解し、それに基づく精神障害者のQOL 向上を把握する。	1
レポート作成、添削指導	60
計	75
授業単位数	5

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（医療的ケア）	
担当教員の実務経験	福祉施設看護経験	
対象学生	心理福祉学科 2年生	
授業時間数・単位数	16 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	○喀痰吸引のケアの流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りでなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。）	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」	
授業上の注意点	提出課題の合格の他、演習「医療的ケア」を手順通りできることが取得条件	
授業計画（内容）		コマ数
1. 医療的ケア実施の基礎（清潔保持と感染予防含む）		3コマ
2. 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順と留意点		3コマ
3. 経管栄養の基礎的知識・実施手順と留意点		3コマ
4. 口腔内および鼻腔内の喀痰吸引		1コマ
5. 気管カニューレ内部の喀痰吸引		1コマ
6. 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養		1コマ
7. 半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養		1コマ
8. 経鼻経管栄養		1コマ
9. 救急蘇生法・AED使用の手順		1コマ
10. 振り返り		1コマ
合 計		16コマ
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護過程Ⅲ）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所勤務経験	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	30 コマ ・ 2 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護：介護過程」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ－介護過程－」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護過程の意義と目的		1
2. 介護過程の展開		1
3. 介護過程とチームアプローチ		1
4. 身じたくの介護～整容における介護 口腔ケア		1
5. 移動の介護～安全で的確な移動・移乗の介助の技法 ボディメカニクスについて ②歩行の介助の技法 ③車椅子の介助の技法 ④ベッド上の移動の技法 ⑤体位変換と安楽な体位の保持		3
6. 食事の介護～安全で的確な食事介助の基本		1
7. 食事の介護～利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 （感覚機能低下、運動機能低下、認知・知覚機能低下、誤嚥・窒息の防止、脱水の予防）		1
8. 排泄の介護～安全で的確な排泄介助の技法 ①トイレ ②ポータブルトイレ ③採尿器、差し込み便器 ④おむつ		2
9. 入浴・清潔保持の介護～状態・状況に応じた全身清拭の演習		1
10. 入浴・清潔保持の介護～入浴の演習		1
11. 入浴・清潔保持の介護～シャワー浴の演習		1
12. 入浴・清潔保持の介護～手浴・足浴の演習		2
13. 入浴・清潔保持の介護～洗髪介護の演習		2
14. 事例1の展開		3
15. 事例2の展開		3
16. 事例3の展開		3
17. 事例4の展開		3
合計		30
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	登録販売者対策	
担当教員の実務経験	看護師として、病院・福祉施設勤務経験	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	45コマ	3単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	登録販売者試験受験のため、要点を絞った解説で理解を深める	
授業の到達目標	登録販売者試験に合格できる	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率、提出物等を総合的に判断して評価する。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	7日間で受かる登録販売者	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
薬の作用を知るための重要なポイント5項目		5
確認テスト実施と解説		1
人体の構造と働き、薬の効く仕組み、副作用、医薬品の基本的な仕組み		5
確認テスト実施と解説		1
頻出する成分について		5
確認テストの実施と解説		1
多くの成分が含まれる医薬品について		10
確認テストの実施と解説		1
外用薬、禁煙補助薬、一般用検査薬について		6
確認テストの実施と解説		1
薬事関連法規・制度について		5
確認テストの実施と解説		1
医薬品の適正使用、安全対策について		3
確認テストの実施と解説		1
合 計		45
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	教養基礎演習Ⅱ	
担当教員の実務経験		
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	本科目では、広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、公務員および一般の就職試験や大学院入試などに対応できる、一般教養の学力をつけることをめざす。教養試験の類型は、多くの地方自治体・施設等における採用試験に取り入れられているため、福祉・保育・教育関連の資格職、公務員や地方上級公務員試験対策はもとより、一般の就職試験対策にも効果的である。また幅広い教養を身につけられることから、就職以外の進路を考えている学生にとっても有効である。	
授業の到達目標	広く基礎科目を学習することにより、大学卒業程度の深い教養を身につけ、レポートおよび科目試験合格を目指す。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	東京アカデミー『セサミノート②一般教養』七賢出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
環境問題については、地球・国・都道府県・市区町村レベルで起こっているものと考えられるが、まずは、思い浮かんだ例を列举してみることである。		1
環境問題の具体例を挙げてみると、自分なりに優先順位が見えてくる筈である。優先順位の高いものについては、それに関連する環境保護のための取り組みについても調べてほしい。		1
南北ベトナムの統一について調べてみよう。その際、年代はもちろんだが、その背景にはどのようなことがあったのか、統一されることによってどのように変わったのかについても確認していただきたい。		1
ベルリンの壁の崩壊については、何が原因で起こった事件なのかを確認してほしい。また、何を象徴する事件として有名なのかについても調べていただきたい。		1
湾岸戦争については、開戦までの経緯を含めて、そのきっかけが何だったのかを考えてほしい。また、この戦争に関わった国についても調べていただきたい。		1
昭和天皇の崩御とは何を意味するのかについて、詳しく調べてほしい。また、天皇が戦前と戦後に果たした役割は何だったのかについても確認していただきたい。		1
沖縄返還については、何という諸島がこの国から返還されたのかを確認してほしい。さらに、そこに至るまでの経緯はどうだったのか、その際に関わった人物は誰だったのか、についても調べていただきたい。		1
東京とサンフランシスコの時差の問題については、経度や地球の自転を考えながら、それぞれ現地時間を計算してほしい。また、サマータイムの開始日時と終了日時についても確認していただきたい。		1
ABO 式血液型の遺伝の仕方については、ABO の 3 つの遺伝子が対立関係であること、それらの優劣関係、AB 型の両親の卵子と精子に含まれる遺伝子とその確率、などを理解した上で論じてほしい。		1
日本の四季の天気については、春夏秋冬の特色を示す用語を確認していただきたい。また、その用語の意味するところを天気図でも理解することが重要である。さらに、それぞれの季節を満喫してみると、新たな発見があるかもしれない。		1
ビルの屋上からボールを水平方向へ投げる問題については、「水平投射」という用語を調べると理解しやすい。この場合、自由落下運動(y軸)と水平運動(x軸)をグラフにして考えると分かりやすい。		1
世界遺産については、その定義について調べてほしい。また、日本はもちろん、海外にも目を向けて、有名な世界遺産についてはインターネットや書籍などでも確認していただきたい。		1

世界遺産に登録されている日本の文化遺産については、押さえておきたい。また、それらの場所かどこなのかについては、地図で確認してほしい。	1
世界遺産に登録されている日本の自然遺産についても知ってほしい。また、それらが世界遺産に登録された理由について確認していただきたい。	1
世界遺産に登録されている日本の無形文化遺産としては何かあるのだろうか。ここでは、無形文化遺産の意味を理解した上で、具体例を挙げていただきたい。また、それらの価値がどこにあるのかも知ってほしい。	1
計	15
授業単位数	1

授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	基礎演習Ⅱ	
担当教員の実務経験	臨床心理士として精神科病院等で実務経験有	
対象学生	心理福祉学科2年	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	基礎演習Ⅰで学んだことをふまえて、心理学における様々なテーマについての理論・方法について、基礎知識をより広げ、より深める。ここでは、基礎的な心理テストや心理実験・調査を実際に行い、心理学における体験的理解をより確実なものにしていく。スクーリングでは、様々なテーマについて、グループディスカッションやグループワークを行い、互いの知識を教授しあうことにより、さらなる理解を深めていく。	
授業の到達目標	基礎的な心理テストや心理実験・調査を実際に行い、心理学における体験的理解を深める。	
成績評価方法と基準	科目終了試験の成績及び出席状況により総合的に評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	B. ファインレイ『心理学 実験・研究レポートの書き方』北大路書房。 大野木裕明、他『調査実験 自分でできる心理学』ナカニシヤ出版。	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
心理学を学ぶ上での実験レポートを書くことの意味について学修する。教科書1の第1章を熟読する。		1
心理学レポートを書くにあたっての、基礎的な概念について理解する。教科書1の第2章を熟読し、「問題」「目的」「仮説」「方法論」「独立変数」「従属変数」について、それぞれ理解する。		1
心理学レポートにおける表現形式と引用の仕方および盗用の避け方について学修する。教科書1の第3章を熟読する。 教科書1pp.91-99の用語解説を通読し、主要な心理学専門用語の概要について理解し、次項の学習に備える。		1
心理学レポートにおける「問題」「方法」「結果」「考察」「文献」「付録」の各項目の具体的な書き方を学修する。教科書1の第4章を熟読する。		1
「論理的思考」に対する心理学的研究の視点を学修する。教科書2のp.61にある問題1と問題2に取り組み、p.66を読んで、問題の意味を理解し、論理的思考について考察する。教科書2のp.64とpp.67-68を熟読する。		1
「直観的判断の誤り」について理解する。教科書2のp.69の二つの質問に答えて、結果を整理し、教科書2のp.68とpp.70-71を読んで、日頃何気なく行っている判断や推理について考察する。		1
「ジェンダー・ステレオタイプ」について学習する。教科書2のp.15の「やりかた」を読んで表に記入し、自分の傾向について確認する。教科書2のp.14およびpp.15-16を読んで、ジェンダー・ステレオタイプについて理解する。		1
教科書2のp.19のCAS尺度項目に答えて、自分のジェンダータイプを確認し、普段の自分が取っている言動を振り返り、自分が持つ性別へのこだわりを客観的に考察する。		1
カウンセリングで言われる「傾聴」について学修する。教科書2のpp.74-77を熟読し、人が人の話を聞くことの意味について、出来る限りの様々な観点から(多ければ多いほどいい)考察する。		1
教科書2のp.79にある面接カードに記入し、それに対して、教科書2のp.80の6つの評価項目によって、自分の表現力を客観的に評価し、今後のスクーリングでのグループワークやグループ討議における自己表現における課題・目標を検討する。		1
「セルフ・エフィカシー(自己効力感)」について学修する。教科書2のp.109にある一般性セルフ・エフィカシー尺度の各項目に応え自分のセルフ・エフィカシーを測定する。その上で、pp.108-111を熟読し、セルフ・エフィカシーの程度と様々な個人特性との関連について理解する。		1
心理学における一つの「恋愛」に関する研究を学修する。教科書2のp.129の課題を実施し、pp.130-131を参照して自分の恋愛類型について評価する。その上で、恋愛類型に関する理論を考察する。		1
心理学における「思いやり行動」についての研究を学修する。教科書2のp.137の質問紙に答えて、自分の「思いやり行動」を測定する。教科書2のp.136とp.138を読んで、共感性や罪悪感といった「思いやり行動」を引き起こす要因について考察する。		1

教科書2のp.125の質問紙に記入し、p.124「結果の整理」に従ってp.126の得点表に結果を整理する。その上で、p.124とp.126を熟読し、自分の日頃の「生き方」、日常生活全体を振り返り、様々な生き方の可能性や工夫について考察する。	1
自分の学生としての現在の適応について客観的視点から振り返る。普段の自分の勉強の仕方を思い起こし、教科書2のp.113の学習適応尺度により客観的に学習適応を測定する。その上で、教科書2のpp.112-115を熟読し、これまでの自分の勉強の仕方を分析して、今後取ることが出来る改善策を具体的に考える。	1
計	15
授業単位数	1